

つかめ！面接のコツ

講師用手引き

ver. 2.0



監修



財団法人 海外技術者研修協会

学習スケジュール

◆はじめに(目的、提出物、評価方法)	3
Part1 課題発見	
第1回 課題発見(1) 履歴書を書こう.....	8
第2回 課題発見(2) やってみよう！面接(集団面接) ビデオ撮影.....	12
Part2 自己理解	
第3回 自分取材活動(1) なぜ日本？	15
第4回 自分取材活動(2) 私はどんな人？	17
第5回 自分取材活動(3) 私の強み1	20
第6回 自分取材活動(4) 私の強み2	22
第7回 自分取材活動(5) 私プロデュース.....	24
第8回 自分取材活動(6) 企業と私のフィッティング	27
Part3 自己表現	
第9回 自己表現活動(1) グループ・ディスカッションを乗りきろう.....	30
第10回 自己表現活動(2) エントリーシートはこわくない1	33
第11回 自己表現活動(3) エントリーシートはこわくない2	35
第12回 自己表現活動(4) 本気で面接1 準備・リハーサル	38
第13回 自己表現活動(5) 本気で面接2 ビデオ撮影	40
Part4 まとめ	
第14回 評価(1) 面接へこれからの課題1 ビデオ評価	42
第15回 評価(2) 面接へこれからの課題2 「面接のコツ」ノートで振り返り	43
◆各回のキーワード	45
■総合評価シート.....	46

◆ はじめに（コースの概要）

1. 概要・目的

就職活動の最終関門である面接に対しては、多くの学生が不安を抱えているのが現状だと思います。採用の合否を決める鍵となる面接では、限られた時間内に最大限の自己アピールをすることが求められます。本コースは、面接の場で明確で簡潔で論理的、そして明確な自己アピールをするための表現方法を身に付けることを目的とします。

コースの初めにまず模擬面接を体験し、また仲間の面接を観察することで、面接で求められる自己表現が何かを知り、現在の自分の課題となるものを発見します。設定した課題を、15回の活動を通じていかに克服していくかが、各回の活動のポイントになります。

面接で必ず聞かれる質問項目の答えを見つけるために、自分の中にあるものを掘り下げ、そこで得た情報を仲間に発表し、フィード・バックを受けながら、さらに内容を深め、客観的に表現するための活動を繰り返していきます。この一連の作業を自分取材活動と呼び、自己表現活動のために欠かせないプロセスと位置づけています。

コースの終盤ではそれまでの活動成果を結集して、二度目の模擬面接を体験します。ここでは自分が設定した課題が克服できているか、さらに残る課題は何かを見極め、本番の就職活動に向けて対策を立てていきます。

2. 授業内容

第1・2回 課題発見

コース全体を説明します。履歴書と送付書を書いてから集団面接を体験し、課題を発見します。

第3～8回 自分取材活動

面接やエントリーシートの設問に合わせてどう表現し、何を記述するかを仲間の力を借りながら徹底的に掘り下げます。

第9～13回 自己表現活動

自分取材で得た情報を、エントリーシート、面接を通して企業向けに表現します。

第14・15回 評価

録画した面接ビデオを使って自己評価を行い、同時にクラスメートからの評価やアドバイスをもらい、今後の課題を発見します。

「私がつかんだ面接のコツ」ノートでコース全体の振り返りをします。

3. 課題 毎回の成果物

下書きメモ

「私のつかんだ面接のコツ」ノートへの清書

4. 模擬面接体験

第2回 集団面接

第9回 グループ・ディスカッション

第13回 個人面接

3種類の模擬面接を体験します。

5. エントリーシート

第10、11回

外国人留学生ならではの特色を盛り込んだアピールをします。

6. 評価方法

授業ごとの評価を取りまとめる形にします。授業ごとに評価するポイントは違います。

情報収集能力とは

面接やエントリーシートに記述する事柄は自分自身、ないしは他者の意見や感想から収集する情報で構成します。その能力を情報収集能力と呼びます。

文書表現能力とは

就活で使われる語彙や表現としてふさわしく、質問のテーマに沿った独自性のある文章を書く能力を文書表現能力と呼びます。

口頭表現能力とは

伝えたいイメージや内容を端的で明確なまとまりのある話し方で伝えることができる能力を口頭表現能力と呼びます。

●情報収集能力について

情報源（自分自身）から自己表現に必要な情報を引き出す（第1-10回、15回）

他者の意見から自己表現に必要な情報を引き出す（第1-10回、15回）

●文書表現能力について

就活にふさわしい語彙表現レベル（言語面）（第1-11回、15回）

就活で求められる自己表現テーマに合っていて独自性がある。（内容面）

（第1-11回、15回）

●口頭表現能力について






端的で明確な自己表現ができる（第2、9、13回）

ねらいどおりのアピールになっている（第13回）

* 「私がつかんだ面接のコツ」ノートについて

活動冊子の巻末にある「私がつかんだ面接のコツ」は、あらかじめ別冊にして配布しておくことで作業効率が上がります。完成したものは、エントリーシートの記入や本番に向けての面接対策ツールとして学習者が活用することを想定しています。

アイコンについて：それぞれの内容に合わせて、活動のサイズをアイコンで示しています。各項目の指示に合わせて、活動を進めてください。

 1人で  ペアで  3～4人で  全員で  タスクの指示

（ ）内の活動時間について：1クラス15人を想定して考えた活動時間の目安です。クラス人数によって調整して下さい。

◆コース・ガイダンス

●目的

本コースの目標と構成を理解し活動内容の具体的なイメージを持つ

●手順

- 1) 「面接」に関する体験談と情報の共有
- 2) 本コースの目的・活動内容・ゴールの理解

1 面接について仲間と話す

話題1 来日してからの面接体験と難しかったこと

(10分)



グループでの話し合いの後、グループの代表が発表し、全体で共有する

これまでの面接体験と困難に感じたことについて、グループで話し合います。

就職試験に限らず、アルバイト募集に応募した時、または入学試験、奨学金の審査など、日本語での面接体験を思い起こし、「考えをまとめて話すことが出来なかった」「敬語が使えなくて困った」などの体験談や感想を出し合った後、グループで話したことを代表に発表してもらい、全体で共有します。

話題2 入社試験の面接について知りたいこと、不安に思っていること (10分)

グループでの話し合いの後、グループの代表が発表し、全体で共有する

入社試験の面接についての疑問点、不安に思っていることをグループで話し合います

「とても緊張して、話したいことがうまく話せない」「どんな質問を受けるのだろうか」

「面接はいつも1対1か」などは、多くが共通して抱えている不安や疑問かもしれません。

ここで浮かび上がった現時点での問題への気づきが、本コースの学習への動機付けになると思います。

2 コースの概要と活動内容を理解する

(10分)



フローチャートの各項目を音読し、全体で意味内容を確認する

本コースの概要と目標、活動内容を全体で確認します。

フローチャートの各課のタイトルの下に具体的な項目が*で示してあるので、全体で読み合わせながら内容の確認をしていきます。

コースの目標

- 1) 就活の最終関門である面接を成功させるための課題を自分自身で見つける。
- 2) 自分自身をよく知り（自己分析）、なぜ就職を希望するのか（志望動機）を、簡潔そして明確に、論理的に表現できるようになる。

活動内容

- 1) **面接体験、自分取材活動**（自分が現在持っている力を見つける）、自己表現活動（簡潔かつ明確に表現する）、**模擬面接**を通して、**今後に向けての課題**を発見する。
自分取材活動というのは、自分の中にあるものを掘り起こすことにより浮かび上がってきたものを言語化し、論理的に表現する活動のことです。
- 2) どの活動も、仲間からの指摘やアドバイスをヒントに改善ポイントを見つけ、内容を練り直してより伝わりやすいものを目指していきます。
- 3) 活動ごとの成果を「**私が見つかった面接のコツ**」にまとめる。

Part 1 課題発見

第1回 課題発見（1） 履歴書を書こう

～企業との最初の出会いを成功へ！～

●目的

履歴書の書式と書き方を知る

企業への最初のコンタクトとなる履歴書は、ビジネス文書特有の様式に沿って記入することが求められ、留学生も例外ではありません。ここでは履歴書の適切な記入の仕方と、履歴書を送付する際に添える送付状の書き方を学びます。

使用するテンプレートはほぼ定型のものですが、大学指定のものがある場合はそちらを使用したほうが実際的かもしれません。

実際の就活では応募を Web 上で行うことも多く、履歴書がエントリーシートの中に組み込まれている形式のものも見られますが、記入上の基本ルールは共通です。

企業に提出する文書は送付後に訂正がきかず、記入ミスがあるとそれだけで評価が下がってしまうことも強調したい点です。

履歴書、送付状を書くことでビジネス文書の書式と用語を知ることにも目的に含まれます。

●目標

必要な時にすぐに使える履歴書の完成版を作成する

●用意するもの

「履歴書テンプレート」（「私がつかんだ面接のコツ 1-1」）（活動冊子 p.56）

*履歴書テンプレートは大学指定のものがあればそれに変えても可

「履歴書サンプル」（リソース集 p.3）

●手順

1. 履歴書を書く

1-1

仲間と確かめる

(10分)



グループでの話し合いの後、教師が履歴書記入のガイドラインを示す

履歴書のテンプレートを見ながら、記入上の疑問点①から⑤についてグループで考えます。各グループでの答えが出た後、教師が記入上のガイドラインを説明します。

①生年月日は読み手の便宜を考え、西暦と元号を併記〔どちらかを（ ）書き〕します。

②学歴は高校卒業から記入すれば良いでしょう。小学校から書く場合は、卒業のみを書きます。

〇〇高等学校（〇〇国・〇〇市）のように、所在地も明記します。

日本語学校や専門学校への通学経験があれば、それも記入します。

③母国の地名や校名表記は、簡体字は日本語の漢字表記に変え、繁体字はそのまま表記することが多いようです。

アルファベットのものは日本でよく知られているような地名はカタカナ表記にしますが、カタカナ表記しにくい場合はアルファベットで書きます。

④母国で取得した資格は、国際資格以外記入しません。

⑤タイプでの指定が特にされていなければ、原則手書きにします。

1-2 書く

(15分)



個別に履歴書の下書きをする

リソース集 (p.3) の履歴書サンプルを参考に、テンプレートに履歴書の下書きを作成します。下書きなので、鉛筆を使用します。

1-3 確かめ合う

(5分)



ペアで履歴書の下書きをチェックし合う

下書きしたものをペアで交換して読み合います。

字がていねいで読みやすいか、誤字がないか、「確かめよう」で示したガイドラインに沿っているかをお互いにチェックします。

1-4 清書する

下書きを回収し、チェックして返却します。清書は自宅作業とします。



「私がつかんだ面接のコツ 1-1 (履歴書)」(活動冊子 p.56) に、黒のインクペンで清書して再提出します。履歴書の場合、修正液は使用できないという留意点を強調しておきます。

2. 送付状を書く

2-1 仲間と考える

(10分)



グループでの話し合いの後、教師が送付状作成のポイントを説明する

活動冊子の送付状のひな型を見ながら、宛名、件名、あいさつ文、本文の文面をグルー

プで考えます。

企業向けのあいさつ文は、教室内でパソコンが使用できれば、「ビジネス文書 あいさつ文」をキーワードに検索すると、何パターンかのあいさつ文を取り出すことができます。

あいさつ文でも重厚すぎるもの（例：謹啓 貴社におかれましては～）は、留学生が企業に出す送付状としてはアンバランスになるため、シンプルなものを選ぶようにします。

パソコンが使用できない場合は、教師があいさつ文の例を示します。

グループで考えた後、教師が以下のポイントを説明します。

- ・宛名の会社名・部署名・役職名・氏名は省略しない。

役職者氏名がわからないときは「人事部御中」にする。

部長様（×）のように、役職名のあとに「様」をつけない。

- ・件名は一目で内容がわかるように工夫する。

次ページに送付状の一例を載せましたが、基本的な形式は押さえつつも、留学生ならではの熱意が伝わるような文書が書けるように指導します。

2-2 書く

(20分)



個別に送付状の下書きをし、内容のチェックを受けてからタイプして文書を作成する。
印刷したものを「私がつかんだ面接のコツ 1-2 (送付状)」（活動冊子 p.57）に貼り付ける

現時点での志望先企業に宛てた送付状の下書きを書いたものを、チェックしてから返却します。送付状は手書きではなくタイプしたものが一般的なので、タイピングして印刷したものを完成形とします。出来上がったものを「私がつかんだ面接のコツ 1-2」（送付状）のスペースに貼り付けます。

*次回に向けて：次回の授業内容を予告し、準備しておくように伝えます。

送付状の例

		平成 年 月 日
株式会社 ○○○○		
人事部		
部長 ○○ ○○様		
	〒123-4567 東京都○○区○○町1-2-3	
	TEL 090-1111-2222	
	○○ ○○	
履歴書のご送付について		
拝啓 貴社ますますご発展のこととお喜び申し上げます。		
私は○○ ○○と申します。○○国○○を卒業後、○○留学生として○○年○月から○○大学に在籍しております。現在、○○学部○○学科○年に在学中で、○○年○月に卒業予定です。専攻は○○で、研究テーマは○○です。来日前から○○に関心を抱いていましたので、卒業後は研究成果と日本での生活体験を生かし、○○業務で人々の生活環境の改善に貢献できればと考えております。		
このたび、○月○日号の「○○求人情報」で貴社の募集案内を拝見しました。ぜひ応募させていただき、面接の機会をいただきたく存じます。		
つきましては、履歴書を同封いたしますので、ご検討くださいますようお願い申し上げます。		
まずは、取り急ぎご送付かたがたお願い申し上げます。		
		敬具

第2回 課題発見（2） やってみよう！面接

～できること・できないこと、私たちの課題は？～

● 目的

面接の場で、現在の自分ができること・できないことが何かを知る

実際に面接を体験してみる、仲間の面接の様子を観察する、自分たちの面接を録画したVTRを見る活動を通して、面接でのポイントに気づき、自分自身の課題を設定します。

今回は入社試験の一次面接として行われることが多い、1グループずつの集団面接の形でいきます。個人面接と違い、集団面接では他人と比較される側面があるため、学習者は個人面接とは別種の難しさを感じるかもしれません。

今回の面接体験での気づきと課題は、本コースのこれからの活動で行われる自己表現の場面を通じて克服していくように意識付けをします。

ここでは4人1グループでの時間配分を示しましたが、クラスの数によっては面接を終えての課題発見の時間をふくらませることができます。

● 目標

面接でのポイントを知り、自身の課題を見つける

● 用意するもの

VTR撮影と再生用の機器、タイマー（音の出るもの）

● 手順

1. 活動の進め方を確かめる

(10分)



面接のやり方、観察のポイントについて、活動冊子を見ながら全員で確認する

活動がスムーズに行くように、今日の活動の流れ1)～3)を全員が理解しておきます。

課題発見シートを全員で音読しながら、各項目の内容を確認します。

課題発見シートには、面接を観察していて気がついたことを箇条書きでメモしておくように指示します。

2. 集団面接を体験する

(30分)



A・B各グループ交代で集団面接をする

2-1 集団面接の準備をする

活動冊子のイラストを参考に、面接を受けるグループは面接官（教師）と対面するように横1列にイスを配置し、観察者は側面から観察できる位置に座り、VTRカメラをセッ

トします。学習者がVTRでの撮影に拒否感を持っている場合、この授業以外には使用しないことを伝え、納得してもらう必要があります。

2-2 集団面接を行う

1人当たりの面接所要時間は3分程度、質問は自己紹介を含む3項目とします。1問につき1分の回答時間にして、タイマーで時間を知らせます。回答までに時間がかかる場合は、次の人への質問に移ります。質問項目はグループごとに全員同じ内容で、指名する順番を変えます。

質問1と2は前回に予告してある内容ですが、質問3は抜き打ちのものです。

例)

Aグループ

「はじめに1分程度の自己紹介をお願いします。①さんから、どうぞ。……

次②さん……③さん……」

「二つ目の質問をします。あなたが好きな日本語の言葉は何ですか。その理由を簡単に教えてください。④さん、どうぞ。……次、⑤さん……」

「三つ目の質問です。あなたを動物にたとえると、何だと思いますか。理由も簡単に話してください」

Bグループ 質問2と3はAグループと内容を変えます。

質問1 はじめに1分程度の自己紹介をお願いします。

質問2 日本人の国民性についてどう考えていますか。

質問3 あなたを色にたとえると、何色ですか。

3. VTRを見ながら面接をふりかえり、課題を見つける

3-1 VTRを見ながら、仲間と話す

(40分)



A・B各グループの面接のVTRを見ながら、面接で大切なことについての気づきを得る

①面接のVTRを見ながら、面接でポイントになることは何かの気づきを得ます。

話の内容はもちろんですが、態度・声など非言語によるメッセージの大きさに気がつくと思います。1分程度にまとめて話すことの難しさや、聞く側の立場に立てば冗漫な話が印象に残らないことも理解できることでしょう。

②VTRを見て、無意識の行動、話し方のくせなどを自覚できるようにするのが目的です。

また、うまくできている点、気になる点を周りから指摘してもらい、自分も確認することで、自分自身の課題を明確にしていきます。

3-2 書く

(10分)



「私が見つかった面接のコツ2（面接を成功させるための私たちの課題）」（活動冊子 p.58）を使用し、各項目についてポイントとなることを確かめながら「面接を成功させるための私たちの課題」をまとめていきます。さらに、VTRを見て気がついたことと仲間から指摘されたことをもとに、「面接を成功させるための私の課題」を書きます。

授業中はメモ書き程度にして、清書したものは次回提出とします。

Part 2 自己理解

第3回 自分取材活動（1） なぜ日本？

～外国人留学生だからこそ聞かれる質問～

●目的

企業が外国人学生を採用する場合にその専門性と共に「なぜ留学先や就職先を日本にしたのか」を知ることは、長期雇用が望める人材かどうかを把握する上でも重要な質問となりますが、その手段となるのは履歴書やエントリーシート、面接でのやりとりです。その1回きりのチャンスに的確に自分の考えを伝えられるように準備することがこの授業の目的です。

●目標

クラスメイトとのやりとりを通じて、自分の表現を練り直すことで具体的で伝わりやすいオリジナリティのある表現を目指します。

●用意するもの

タイマー（音が出るもの）

●手順

1. 専門について説明しよう

1-1 下記の条件を確認しよう

(1分)



最終的にどのような文章にまとめるかという全体像を確認します。その際、聞き手や読み手を意識できるようにします。1分程度で話せる内容にまとめます。

1-2 仲間と話そう

(5分)



グループセッションに入る前に自分の答えを考えさせた後、質問項目に対して答える形で他のメンバーに説明します。ウォーミングアップなので全員に順番が回るように時間厳守で行います。

1-3 <下書きその1>を書いてみよう

(10分)



条件1～3までをひとまとまりの文章にします。条件3は志望している職種や業種で自分の専門性をどのように生かしたいと考えているかを書きます。1分程度で説明できる分量でまとめるようにします。

1-4 仲間に話そう

(10分)



1分という制限時間を守って発表するように指導します。聞いている人達に評価ポイントからコメントをしてもらいます。特に評価1、2は発表の内容をより具体的なものにするのに重要なので、各グループで適当なやりとりがされているかどうか随時チェックし、サポートします。

1-5 <下書きその2>を書こう

(5分)



「下書きその2」に必要な条件を全体で確認し、クラスメイトとのやりとりの中で明確になった部分を加えて、再度原稿を書き直します。

授業のあとに

授業時間外の活動としてタスクごとに下記のことを課します。

- 1) 最終的な「下書きその2」の原稿提出
- 2) それが面接やエントリーシートでの説明として適当かどうかを含めてチェック
- 3) 返却後「私がつかんだ面接のコツ」の該当ページに清書

●グループ活動について

それぞれのタスクで不具合があれば、グループのメンバーを変えて行ってもよいかと思いますが、この時間内で一度出た話題は繰り返す必要がない方が時間の節約になるので、基本的には同じグループがいいと考えます。

●タスクのスピードについて

各グループの想定人数3、4人、全体で10人程度を想定しています。1タスク30分というのはかなり忙しい流れになりますが、面接では短い時間に迅速に反応することが大切なので、そのようなやりとりに慣れるよう、あえて時間的余裕の少ない設定にしています。話すスピードを考慮に入れて文章の量を自分で調整し、タイマーを使用して時間内に話すトレーニングをします。

第4回 自分取材活動（2） 私はどんな人？

～私の長所と短所～

●目的

アピールする自分の長所と、改善目標となる短所を明確にする

自分掘り起こしの二つ目の活動として行います。面接やエントリーシートの質問の定番である「あなたの長所と短所」について、誤解を生まない表現を探し、具体的なエピソードで裏付けられるようにします。

伝わりやすい表現を工夫するために、前回の「なぜ日本？」と同様、グループ・メンバーとのセッションを経て内容を練り直すプロセスが不可欠です。

●目標

自分を客観視して、説得力のある自己PRができる

自分の長所と短所についてエピソードを交えて話し、自己PRにつなげていきます。

●用意するもの

タイマー（音が出るもの）

●手順

1. 人の性格や傾向を日本語でどう表すかを知る

1-1 仲間と話す

(15分)



グループでの話し合いの後、性格の言葉の意味付けを全体で検討し、共通理解を持つ

グループで[]の言葉がプラスとマイナスどちらの意味を持つかを検討し、分類していきます。「自己中心的、せっかち、人見知りする」がマイナスに分類されます。

たとえば「せっかち」は単に決断や行動が速いことを表すというような意味理解で終わらないように、辞書的な意味説明だけでなく、それぞれの言葉で表される性格・傾向を持つ人物がどんな場面でどんな行動をとるのかを具体的にイメージできるように例示しながら進めます。

[]で挙げたもの以外にも性格・傾向を表す言葉をグループの中で出し合った後、グループの代表が発表し、プラス・マイナスの判断が妥当かどうか、全体で検討します。

注意しておきたいのは、性格を表す言葉の理解が一般的な日本人の理解とずれていないかということです。たとえば「自分の考えを容易に変えない」ことを「頑固」だと理解していると、実は「意志が強くて信念を貫く」と言いたいのに、「頑固だから自分の考えを変え

ない」と表現してしまうようなことが起きるので、言葉が含むニュアンスを誤解しないように注意します。

2. 働くことと性格・傾向の関係を考える

2-1 仲間と考える

(15分)



グループでの話し合いの後、出てきた言葉と理由の結びつきが妥当か全体で検討する
企業が求めるのはどのような性格・傾向の人物なのか、またそうした性格・傾向が仕事上、どのようにプラスとして働くのかを考えます。

「明るい」「まじめ」「粘り強い」「向上心がある」「発想力がある」「協調性がある」などが挙がることを想定していますが、これ以外にもいろいろ挙がると思います。出てきた言葉と、理由の結びつきが妥当かどうかを全体で検討します。

3. 自分自身の長所を仕事に結びつけて具体的に表す

3-1 <下書きその1>を書く

(15分)



個人作業で<下書きその1>を書く

自分のノートを使用し、自分の性格の長所で思いつくものを何でも書いてみて、その中から仕事に生かせそうなものに絞り、エピソードを盛り込んでいきます。

エピソードは現在の研究や専門、サークルでの体験、趣味・特技、アルバイトに関する
こと、子どものころからずっと続けていることなどが書きやすいかもしれませんが、月並みな印象に終わる可能性もあります。日本語学習や日本での生活体験、国際交流での体験
など、留学生ならではの独自性を追求したいものです。

「私は自分で目標を決めたら、困難に出合っても最後までやり抜きます。来日したばかり
のころ、日本語がわからなくて苦労したので、日本語が上手になろうと決めて毎日……

(略) … 仕事でいろいろな困難に出合っても、この経験を生かして成長していきたいと
思います」のように、まず長所を述べて、エピソードを語り、将来の抱負につなげる構成
にします。

3-2 仲間に話す

(15分)



グループで<下書きその1>を話し、評価とコメントをし合う

メンバーの意見を参考に、<下書きその1>を書き直して提出する

<下書きその1>を見て1分程度で話す練習をしてからグループ・メンバーに話し、聞き

手は評価1～3の観点からコメントをします。

3-3 > <下書きその2>を書く

グループ・メンバーからの評価とアドバイスを取り入れて書き直したものを、<下書きその2>とし、チェックしてから返却します。

4. 自分に足りないもの、改めようと思っていることを仕事に結び付けて表す

4-1 > <下書きその1>を書く

(15分)



個人作業で<下書きその1>を書く

短所はやや注意が必要です。「そそっかしくてよく忘れ物をする」「約束を忘れてしまう」などはエピソードとしては面白いものになるかもしれませんが、自己PRに結びつけるのは難しいでしょう。

「友人に頼まれると断れない点が短所だと思います。たとえば友人にレポートの資料調べを手伝ってほしいと頼まれると、試験の前で忙しくても睡眠時間を減らして手伝ったりします。仕事では何が一番大切かを考えることが求められると思いますので、無責任な結果にならないように、よく考えて断る勇気も持っていきたいと思います」のように、ウィークポイントを改善していく意思を示すようにします。

4-2 > 仲間に話す

(15分)



グループで<下書きその1>を話し、評価とコメントをし合う

メンバーの意見を参考に、<下書きその1>を書き直して提出する

<下書きその1>を見て1分程度で話す練習をしてからグループ・メンバーに話し、聞き手は評価1～3の観点からコメントをします。

4-3 > <下書きその2>を書く

グループ・メンバーからの評価とアドバイスを取り入れて書き直したものを、<下書きその2>とし、チェックしてから返却します。

5. 「私の長所と短所」をまとめる

チェックを受けた「私の長所」「私の短所」<下書きその2>をもとに、「私がつかんだ面接のコツ4（私の長所と短所）」（活動冊子 p.60）にまとめて完成とします。



第5回 自分取材活動（3） 私の強み1

～社会人基礎力で自己PR！～

「社会人基礎力」とは…

経済産業省が平成18年に「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として発表された能力。日本人大学生に対してもその育成に関する様々な試みが始まっています。経済産業省のHPにあるプレスリリースされた報告書に目を通しておくと、より具体的に理解できます。また各種調査報告書では企業の求める人材像や、業種・職種別の求められる社会人基礎力等も分析されています。

参考資料

経済産業省「社会人基礎力に関する緊急調査」（平成18年4月）

<http://www.meti.go.jp/press/20060418005/shakaijin,kisoryoku-chousa-set..pdf>

経済産業省「企業の『求める人材像』調査2007～社会人基礎力との関係～」（平成19年3月） <http://www.meti.go.jp/press/20070312001/jinzaizoutyousa.p-r.pdf>

●目的

「自己PRをしてください」というのは、面接やエントリーシートの代表的な質問項目の一つです。自分をPRするポイントとして、各自の専門性、長所や性格の適性等さまざまありますが、採用する企業側に浸透しはじめている「社会人基礎力」を使って自分をPRすることは、採用企業側と共通のものさしで自己アピールができるということです。ここでは初めの一步として、これまで培われた自分の能力を振り返り、自分を際立たせる「強み」として言語化することを目指します。

●目標

社会人基礎力の概要を知り、それぞれの能力要素を説明する具体的な事例をもとに話し合うことで共通理解と自分の中の振り返りを行います。

●手順

1. それぞれの力が表す意味を理解しよう

(60分)



1の「前に踏み出す力」を構成する、a. 主体性、b. 働きかけ力、c. 実行力の3項目、また2の「考え抜く力」のd. 課題発見力 e. 計画力 f. 創造力の3項目について、課題として示してある内容についてグループで話し合います。グループセッションを通して、それぞれの言葉の示す意味が社会人基礎力で求められる力としてイメージされているかどうかを確認

します。

特に「働きかけ力」は造語である上に「働きかける」という行為が「能力」という概念とつながりにくい学生もいると思われるので、実践の場でどう活用できる能力なのか、前もってイメージし具体的に例示できるようにしておくといいかもかもしれません。

それぞれのグループで話し合った結果を発表する時には1分程度にまとめて言うことによって、ポイントを明確にして意見を言う練習になります。グループの数や授業時間に応じてグループ内の数人に発表させてもいいし、代表者に発表させて他のメンバーには補足説明等をさせてもいいでしょう。

「具体的な事例で考えよう」は経済産業省発行のリファレンズブック『今日から始める 社会人基礎力の育成と評価～将来のニッポンを支える若者があふれ出す！～』に掲載されていた日本人大学生の実際の自己評価から事例（pp. 30-31）を抜粋しました。下記のサイトからダウンロードもできます。

<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/h19reference.htm>

社会人基礎力のどの能力を発揮した事例か各グループで話し合ってもらいます。判断の基準となるキーワードが含まれた事例を選んでありますが、境界線がはっきりせず一つの答えに絞りきれないものもあると思われます。この練習の目的は各能力を発揮する具体的な場面をイメージすることと、その能力を表現するための語彙や書き方を知ることですので、各グループで議論をすること自体がいい練習になります。その中身が十分な根拠となっていれば、正答がどれかということにこだわらなくても良いでしょう。

- | | | |
|----------------------|--------------|----------------|
| (1) (働きかけ) 力 | (2) (実行) 力 | (3) (働きかけ) 力 |
| (4) (課題発見) 力 | (5) (計画) 力 | (6) (柔軟性) |
| (7) (ストレスコントロール) 力 | (8) (発信) 力 | (9) (規律性) |
| (10) (状況把握) 力 | | |

2. 自分のことを考えてみよう

(30分)



他の人に見える自分を手がかりにして、自分の力について考えます。根拠や理由が伴っているか、また事実をもとにしているかに留意して話し合うようにします。他の人からの意見を聞く時にはその妥当性についての議論にならないように気をつけます。

第6回 自分取材活動（4） 私の強み2

～社会人基礎力で自己PR！～

●目的

前回と同じ。

●目標

自分の中にある「社会人基礎力」を見つけ出し、具体的なエピソードを根拠として説得力のある自己PRを目指します。

●手順

1. 強みとしての「社会人基礎力」を見つけだそう

(15分)



1-1 考えよう

課題1に関して：自己診断シートから<A>をつけられる項目を1つないしは2つ選びます。全体を見てから、各学習者が必ず1つは選ぶようにしてください。2つ以上の場合は絞り込んで1つか2つにするようにします。

課題2に関して： A: () に選んだ項目を入れる。(例：柔軟性)

1) それを選んだ理由

(例：来日して様々な異文化体験をするうちに適応する力がついたと考えるから)

2) その理由を表す具体的な出来事

(例：アルバイトを見つけるまでの出来事、アルバイトをしていく中での同僚との摩擦など)

3) その力は職場でどんなときに発揮できると思うか

(例：意見の食い違いがある時、問題点がどこにあるかを検討し、妥協点をさぐる)

1-2 仲間と話そう

(25分)



グループで1人ずつ考えたことを発表します。発表者以外はそのつど評価ポイント1-3について発表者に対してコメントしてもらい、疑問点に関して質問する。できるだけ全員がコメントするように指示を出してください。明確にしたいポイントに関しては、教師からもコメントするようにします。グループ全員が話せるようにグループの人数によって時間配分を指示します。

1-3 書こう

(30分)



フローチャートと例を使って文章の流れを全体で確認します。「社会人基礎力」そのものが何であるかの説明を必要とするかもしれないので、念のため前置きに入れておきます。

前置き → **結論** → **説明** → **具体的事例** → **まとめ**

例のほかにも一、二の事例で文章のまとめ方を確認したら、()の中に個別に自分の事例をまとめて、ひとまとまりの文章にします。

1-4 仲間と話そう

(30分)



自分でまとめた文章を全体に向かって説明します。書いた文章を読みながらでも、ポイントごとにできるだけ聴衆に向かってアイコンタクトをするように指導します。5分程度練習してから始めてもいいかもしれません。また聴衆は評価1-3についてコメントするようにします。

授業のあとに

各自が書いた文章を提出してもらい、文法的なミスがないかどうかチェックします。返却したら最後に「私のつかんだ面接のコツ5（社会人基礎力で自己PR）（活動冊子 p.61）ノートに清書してもらいます。

第7回 自分取材活動（5） 私プロデュース ～面接で伝えたい自分像は？～

● 目的

非言語表現を含めた自己表現の技法を身に付ける

日本の企業社会にデビューする新人の自分を、面接の場でどのように印象的に売り込むかをプロデュースするのは自分、という観点で自分像を作り上げていきます。

今回は特に、第一印象に重点を置いて自分自身のイメージ戦略を立てます。

グループ内で模擬面接を行い、「ジョハリの窓」の手法を援用した印象チェックで「自分が思っている自分像」と「他者が見ている自分像」の違いを見つけ、自分のイメージ戦略が成功しているかどうかを検証します。

また、「印象チェック」を行う評価者としては初対面の人のほうが効果的なので、可能であれば、クラス外の日本人学生などに参加を求めて評価者に加わってもらいます。

● 目標

社会人としてデビューする自分の第一印象を演出する

面接で伝えたい自分のイメージを練り上げ、狙い通りに伝えるための方略を見つける。

● 用意するもの

タイマー（音の出るもの）、B4 大の白紙（人数分）

付箋紙（名刺大のものピンクとブルーを3枚ずつ×人数分）

● 手順

1. 人の第一印象を決めるものを考える (15分)



各自で考えた後、グループ・メンバーと比較し合う

クラスの初日やアルバイトの初日などで出会う初対面（あいさつから自己紹介まで）の人の第一印象を、何によって決めているのかを各自で考えます。

顔、服装、髪型、声、表情、目、体型、態度、言葉づかい、話の内容などさまざまな答えが出ると思います。それをさらに印象度の高い順に3つに絞り、グループ・メンバーと比較してみます。比べ合うことで他者の意外な視点に気づくかもしれません。

2. 第一印象を面接官の視点で考える (15分)



グループで話し合い、考える

企業面接で、採用担当者は応募者のどこに注目しているかをグループで話し

合い、考えます。



3. 面接時に印象付けたい自分のイメージ戦略を立てる (10分)

印象付けたい自分のイメージを決めて、ピンクのカードに書く
そのイメージの目的と戦略をノートに書く

3-1 面接時に印象付けたい自分のイメージを3つまで選び、ピンクのカードに書きます。ピンクのカード1枚に1つの言葉に限定し、1人3枚までとします。

× 明るくて積極的で礼儀正しい

○ 明るい ○ 積極的 ○ 礼儀正しい

表したいイメージと受け止めたイメージが重なるか、またはずれているかを見たいので、表現が多様にならないように、ここではできるだけ の言葉から選ぶようにします。書いたカードは周りが見えないように注意します。

3-2 例のように、イメージを表す言葉を選んだ目的と戦略をノートにメモ書きします。



4. イメージ戦略に沿って、印象チェックをしてみる (30分)

4人で1グループを作り、模擬面接をする（入室から自己PR、1問1答、退室まで）。グループ・メンバーは面接の様子を観察して、応募者の第一印象をブルーのカードに書き、なぜその印象を受けたかの根拠はノートにメモ書きする

活動冊子で模擬面接のやり方を全員で確認し、グループごとに模擬面接をします。

グループの中で面接官と応募者の役割を交代で演じます。

面接は1人5分以内で終わるようにします。

5. 自分がねらったイメージと相手が受けた印象の違いを見つける (20分)



自分がねらったイメージと相手が受けた印象の違いを知り、メンバーと話し合いながら理由を考え、イメージ戦略メモを書く

自分が思っている自分と他人が思っている自分とのギャップの検証を「ジョハリの窓」の手法を応用して行います。

B4 大くらいの白紙を4つに仕切り、左上の四角の中にA、左下にB、右上にC、右下にDと書きます。

Bにピンク、Cにブルーのカードを置き、BとCで共通しているものはAに移動します。

5-1 仲間と話す

カードを移動し終えた状態のものを見ながら、Cに残ったカード（他人が受けた印象）の根拠をメンバーに聞きます。Bに残ったカード（自分がねらったイメージ）について、印象がなぜ伝わらなかったかを考えます。

5-2 イメージ戦略メモを書く



イメージ戦略が成功したものと失敗したもの、はじめて気がついたことに分けて、冊子のイメージ戦略欄にメモを書きます。

6. 伝えたい自分像と戦略を立て直す



メモをもとに、面接時に伝えたい自分像と戦略を練り直して、「私がつかんだ面接のコツ 7（私プロデュース）」（活動冊子 p.62）を記入後、提出するように指示します。

第8回 自分取材活動（6） 企業と私のフィッティング

～私の強みを発揮できる職種は？～

●目的

志望動機と企業が求める人材像を結びつける

経済産業省が平成19年3月に発表した資料（「企業の『求める人材像』調査2007～社会人基礎力との関係～」<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/cyosa2007.pdf>）を使用して、職種ごとにどのような能力要素が求められているかを調査します。

その上で、志望職種で発揮できる自分の強みは何かを考え、アピールにつなげます。

●目標

説得力のある志望動機を作り上げる

職種研究の成果を取り入れた、説得力のある志望動機を作り上げます。

●用意するもの

リソース集

●手順

1. 職種ごとにどんな能力が求められているかを考えてみる

1-1 仲間と話す

(10分)



グループで職種と職務の具体的な内容について、情報交換し合いながら話し合った後、全体で確認する

話題1：下の表のa～iの職種と職務の具体的な内容について確かめ合う。

グループで、職種と職務の具体的な内容を話し合います。職種名は人事や貿易事務、接客などのよく知られているものについては職務内容をイメージしやすいと思いますが、学習者の専攻によってはなじみが薄い職種があるかもしれません。

もし学習者の専攻がさまざまだったら、専攻が偏らないようなグループ編成にして、情報交換をし合い、理解の助けとします。

話題2：社会人基礎力の12の能力要素それぞれが、特に強く求められるのはa～iのどの職種か、理由を考えながら2つまで選んでみる。 (20分)



グループで（ ）に入るものを理由とともに考えて記入し、資料集で確かめる
その後、全体で確認する

グループで理由を話し合いながら、() に入る要素を推測しながら記号を入れていきます。ひととおり記入したあと、資料集（リソース集 pp.5-9）のグラフを見て自分たちの推測と合っているかどうかを確かめる作業をします。まとめとしてクラス全体での確認をします。

グラフから読み取れる結果は以下のようになります。

- | | | | |
|--------|-------------|--------------|-------------|
| ①主体性 | (b) (c) | ⑦発信力 | (c) (b) |
| ②働きかけ力 | (c) (b) | ⑧傾聴力 | (e) (c) |
| ③実行力 | (c) (d) | ⑨柔軟性 | (e) (h) |
| ④課題発見力 | (i) (d) | ⑩状況把握力 | (g) (c) |
| ⑤計画力 | (g) (b) | ⑪規律性 | (a) (e) |
| ⑥創造力 | (h) (b) | ⑫ストレスコントロール力 | (c) (i) |

2. 仕事の場面で発揮する能力について考える



2-1 仲間と考える

(15分)

グループで話し合いながら () に記号を入れた後、全体でシェアする

抽象的な表現である社会人基礎力の12の能力要素を、営業職を例にとりて具体化して考えていきます。下記は回答の一例ですが、たとえば「顧客との面談に、ストレスコントロール力は欠かせない」など、取り上げた能力要素と根拠に整合性があれば可とします。

グループで考察した結果を全体でシェアし、判断が妥当かどうか検討します。

例：職種＝営業系 担当＝顧客開発

場面	求められる能力
社内会議に出席する	(④) (⑥) (⑦)
顧客にアポイントを取る	(③) (②) (⑪)
訪問して顧客と面談をする	(②) (⑦) (⑧) (⑩) (⑫)
帰社後、報告書、企画書を書く	(①) (⑥) (⑦)

3. 説得力のある志望動機を作る



3-1 > <下書きその1>を書く

(10分)

個別に<下書きその1>を書く

自分の希望職種を決め、タスク1・2で得た情報をもとに、職務内容と求められる能力について記述します。

「自分の強み」は、本コースの第6回「私がつかんだ面接のコツ6」でまとめたものを使用できます。

3-2 > ペアで話す

(10分)



ペアで<下書きその1>の内容について質疑応答する

<下書きその1>の内容について、ペアで質疑応答をして志望動機に関する自分の考えを明確に伝える練習をします。わかりにくい点、表現が適切ではないところを、相手の力を借りながら修正していきます。

3-3 > <下書きその2>を書く

(15分)



個別に<下書きその2>を書く

訂正を入れた<下書きその1>をもとに、<下書きその2>「なぜこの職種を志望するのか」を書きます。全部の項目を順番に羅列するのではなく、希望するようになったきっかけと仕事の魅力、その職種に求められる能力、自分が発揮できる能力に的を絞り、1分程度で話せる長さの文章にまとめて書くように指導します。

3-4 > 仲間に話す

(10分)



3人程度のグループで1人ずつ発表し、内容と話し方についてアドバイスし合います

<下書きその2>を見ながら、グループ・メンバーに「志望動機」を1分程度で話します。

3-5 > 書いてみる



グループ・メンバーからのフィード・バックを参考に<下書きその2>を手直しします。提出してチェックを受けてから、「私がつかんだ面接のコツ7（なぜこの職種を志望するのか）」（活動冊子p.63）に清書します。

Part 3 自己表現

第9回 自己表現活動（1） グループ・ディスカッションを乗り切ろう

～いろいろな形の面接～

●目的

面接の形式を知り、対策を立てる

グループ・ディスカッションを体験し、課題を設定する

面接の種類と形式を知り対策を立てることと、あまりなじみのないグループ・ディスカッションという面接の形式と内容を知り、実際に体験してみることでポイントに気づき、課題を設定します。

●目標

グループ・ディスカッションで効果的にアピールできる

●用意するもの

タイマー（音が出るもの）

●手順

1. 面接の形式を知り、注意点を考える (15分)



グループで話し合いながら注意点を出し合った後、全体でシェアする

面接にはインタビュー形式で行われる個人面接（志願者1人に対して面接官1人または複数人）や集団面接（志願者複数人：面接官複数人）のほか、グループ・ディスカッションとって初対面同士の志願者をグループにして討論させる形式のものが、近年、大企業やベンチャー企業でよく行われるようになっていきます。

今回はグループ・ディスカッションを実体験して気づきを得ますが、①の集団面接は本コースの第2回ですすでに経験済みであり、②の個人面接は本コースの最終課題となるものです。③のグループ・ディスカッションは今回の活動を通して理解していきます。

それぞれの面接の目的や内容を確認しながら、面接を成功させるための注意点を話し合います。以下に例を挙げますが、他にも出るとお思いますので、全員で検討します。

マナーを守る、はきはき話すなど、どの面接にも共通した注意点は省きます。

①集団面接

- ・一人当たりの時間が短いので、簡潔に要領よく答える。
- ・集団に埋もれないように、印象的な答えを考える。
- ・他の志願者の話をよく聞く。

②個人面接

- ・明確に熱意と意欲が伝わるように話す。
- ・ダラダラと長く話さず、論理的に話を展開する。

③グループ・ディスカッション

- ・自分一人だけで意見を言わない。
- ・テーマから外れるような話をしない。
- ・感情的になって人の意見を批判しない。



2. グループ・ディスカッションの進め方、注意点、評価項目を知る (20分)

全体でグループ・ディスカッションの進め方、討論者の役割、評価者の観点を確認する

2-1 2-1 グループ・ディスカッションの進め方を知る

実際の企業面接のディスカッションは40分ぐらいの時間をとるようですが、授業では全員に体験させる意図から、20分に設定します。進め方は実際例に即していますので、流れをよく理解させます。ディスカッションの時間は厳守します。

2-2 2-2 グループ・ディスカッションに参加するときの注意点を考える

ディスカッションのメンバーは役割分担をしなくてはならないので、それぞれが具体的にどんな役割をするのかを確認します。

どの役割が有利ということではなく、積極的にそれぞれの役割を引き受けるようにし、役割にふさわしい動きができるかどうかポイントです。議事録係は実際にはノートに記録して提出することを求められますが、授業ではボードに板書することにし、あとの振り返

りに使うようにします。

2-3 ▷ グループ・ディスカッションの評価項目を確かめる

ディスカッションのメンバー以外は全員が評価者の立場でディスカッションを観察し、評価します。評価の各項目について、不明な点がないように、全体で確認します。結論の内容がいかどうかではなく、討論者全員が協力しながら討議し、結論をまとめて報告できることがポイントです。



3. グループ・ディスカッションを体験する (40分)

Aグループ、Bグループの順に20分ずつグループ・ディスカッションを行う

3-1 ▷ グループに分かれ、実際にグループ・ディスカッションをやってみる

AグループとBグループに分かれそれぞれの議題でディスカッションを行い、討論参加者以外は全員、評価シートを記入します。

Aグループの議題「社会人と学生の違い」 / Bグループの議題「仕事のやりがいとは」

4. グループ・ディスカッションのポイントを整理する

4-1 ▷ 体験後のふりかえり

(15分)



グループ・ディスカッションを体験してみたの感想・意見を全体で話す

討論参加者として難しかったことは何か、自分の役割が果たせたか、課題は何か、また評価者の観点からの意見と感想を全体で話し合います。

4-2 ▷ ポイントと課題のまとめ

ディスカッションに参加した体験、評価者からの意見、全体でのふりかえりの中で話し合ったことをまとめ、「私がつかんだ面接のコツ8 (グループ・ディスカッション)」(活動冊子p.64)を記入し、提出します。



第10回 自己表現活動（2） エントリーシートはこわくない1

～外国人である自分をアピール！～

●目的

自分取材活動の中で収集してきた自分に関する情報をテーマに合わせて文字化する
外国人留学生ならではの自己アピールを模索する

●目標

企業が外国人社員に求める人材像に合わせて自己PRを書く

1. 外国人留学生としてアピールできること

企業が外国人社員の採用を考える理由は

1. 専門の技術や知識がある高度な技術を持つ人材を採用したい
2. 日本本社と駐在の事務所や工場をつなぐブリッジ人材として育成したい
3. 社内文化や風土を変化させるための社内活性化の人材として採用したい

この3点にあると言われていています。それぞれが社内でどのような働きをすることが求められているのか、そのためにはどんな力や資質が必要になるかを考えます。

1-1 仲間と話そう

(50分)



上記1、2、3のような人材について例を参考にして「どのような仕事ができる人か」を考えます。それぞれにもう1例ずつ全体で考えてからグループ活動に入った方がスムーズかもしれません。いくつかの例が出てきたら、そのような仕事をするためにどんな資質や能力が必要かを□の中の言葉を参考に考えます。□の中の言葉はあくまでも参考ですので、グループの話し合いの中から出てきたものを（ ）の中に記述します。各項目をグループでまとめて（15分）全体でシェア（5分）を3回繰り返します。

2. 「自己PR」を書こう

(20分)



企業の求める人材像が必要とする能力、社内での働きをイメージして、外国人社員として自分はどのような力が発揮できるかをイメージします。条件1～3を各学習者が見つけられるように、例を示します。字数制限のあるエントリーシートもありますが、この段階では条件1～3を満たして1分以内で話せる内容の原稿を目指します。

2-1 仲間に話そう

(20分) 

1人ずつ書いたものを全体に発表します。発表者以外はそのつど評価ポイント1-3について発表者に対してコメントするように指示をしてください。全員が話せるようにグループの人数によって時間配分を指示します。

3. エントリーシートを書こう



条件1～3を踏まえた内容で、「面接でつかんだコツ9（エントリーシートはこわくない）」（活動冊子 p.65）「自己PR」に清書することを課題として出し、回収して添削します。エントリーシートは手書きが基本ですので、丁寧な文字で書くことを確認しましょう。

第11回 自己表現活動（3） エントリーシートはこわくない2

～外国人である自分をアピール！～

●目的

自分取材活動の中で収集してきた自分に関する情報をテーマに合わせて文字化する
外国人留学生ならではの自己アピールを模索する

●目標

エントリーシートのコツを意識しながら書く

1. エントリーシートのコツをつかもう

(15分)



エントリーシートを書く際のコツを全体に確認します。

コツ1 結論を始めに述べること。その結論は、仕事をする上でどのように必要な力か、仕事でどのように活かせる経験か等、仕事をする事と関連していることが大切。

→ 短い文章で言いたいことを明確に伝えるためには、まず質問に対しての答えを最初を書いてしまうことが一番です。エントリーシートを書く際の最初の作業として、まずこの答えの部分を1行程度にまとめるよう、指導してください。

コツ2 その結論を裏付けるエピソードは、外国人留学生として感じる事、経験したこと、その生活を通して考えたこと、乗り越えてきたことを根拠にする。

→ 次にその答えを裏付ける根拠となるエピソードを書きますが、その際上記のような外国人留学生ならではの考えを反映させることによって、日本人学生との違いを出すことができます。母国の現状、将来の夢、日本で成し遂げたいこと、それら留学生活の困難を支える事柄を、個々の学習者から引き出すように質問をしてみてください。

コツ3 丁寧な文字で書くこと。日本文化の中では、手で書いた文字はその人がどんな人かを表していると考えられている為、きれいに書こうという心がけが大切。

→ エントリーシートの基本は手書きです。絵や図を使うことに関しては、「A4に自由に自分を表現してください」等の指定がある場合を除き、文章だけにとどめておいた方がいいようです。外国人であることを考慮に入れて、そのバランスの良さではなく、丁寧さ、読みやすさを意識させます。

1-1 仲間と話そう

(30分)



以下3つのタイプは、一般企業から出されるエントリーシートの代表的な質問項目です。それぞれについて上記のコツを踏まえて文章化できることが理想ですが、この授業の中では、コツを意識して文章化するまでのプロセスを、クラスの仲間と一緒に体験することを優先させます。ここでは代表的な質問項目に目を通し、これまでの自分取材の中で掘り起こしてきた情報を、個々の学習者がどの程度まで整理できるかを明確化することを目標とします。全項目はできないかもしれませんが、各項目について各自がどのような答えをどのようなエピソードで裏付けることができるか、できるところまで話し合うようにします。

<自己PRタイプ>

⑤以外は全て自己PRをすることを求められている設問ですので、①の設問に対し性格や能力を述べてもいいし、前の時間で行った社会人基礎力でのアピール、企業が求める人材像からのアピールを述べてもいいでしょう。⑤に関しては、日本の現状を母国での現状との比較などの観点から述べるのも一案です。

<志望動機タイプ>

現段階で志望する企業名まで確定している学習者が少ない場合は、「企業と私のフィッティング」を参考に、企業研究を進める中で定まってきた「自分軸（参考：A-2 業界・企業研究入門）」を元にまとめると良いでしょう。この設問はどのような企業でもエントリーシートや面接では聞かれると思って間違いないので必ず文章化しておくことを確認しておきます。

<将来設計タイプ>

大げさな展望を書く必要はありませんが、日本企業でどのようなことを学び、どのような能力を身に付けて、それをどのように生かして母国ないしは日本で仕事をしていきたいと現在考えているのかを記述すれば良いのではないのでしょうか。

2. 「自己PR」を書こう

(30分)



2-1 <下書きその1>を書こう

ここでは自己PRの別のバージョンを書いてみます。日本人学生と同様のエントリーシートを提出することを考えると、「学生時代にがんばったこと」「学生時代に力を入れたこと」「学生時代の印象に残っていること」のような記述の設問は多く出されると思われます。特にそのポイントが「困難」である必然性はありませんが、「スポーツをがんばった」「サ

ーカル活動やアルバイトに力を入れた」という内容であると日本人学生との内容に差異が出にくい部分もあると思いますので、それらの活動の中でも、「外国人留学生だったからこそ難しかった点」というのを取り出して説明すると良いでしょう。それを今後の企業生活にどのように生かしていくことができるかという視点でまとめましょう。

ここでは原稿用紙一枚以内（300 字程度：口答発表 1 分程度）という字数制限で書き、文章のボリュームをイメージできるよう指導します。

2-2 仲間に話そう

(15 分)



1 人ずつ書いたものを全体に発表します。発表者以外はそのつど評価ポイント 1～3 について発表者に対してコメントするように指示をします。

3. エントリーシートを書こう



条件 1～3 を踏まえた内容で、「面接でつかんだコツ 10 (エントリーシートはこわくない)」(活動冊子 p.65)「自己 PR」に清書することを課題として出し、回収して添削等してください。手書きでもいいですが、Web 上からのエントリーも可能なので、その練習として、ワープロソフトを利用してタイプしたものを提出させてみるのもいいでしょう。

第12回 自己表現活動（4） 本気で面接1 準備・リハーサル

～これまでに学んだことの全てを出しきろう～

●目的

次回の模擬面接でこれまでの自分取材の成果を出す

●目標

面接での注意事項から自分の課題を明確にする。それを意識しながら面接体験の練習を行う

●手順

1. 面接での注意事項を確認する

(20分)



面接時のアイコンタクトや態度等、第一印象に関わる非言語表現や、質問に対してどう答えるか等自己取材活動で考えてきたことを、再度確認し、面接のコツを整理します。非言語面からクラス全体でどのような形が理想であるかを確認します。

「まっすぐ前方を見て座っている」というのは、腕や足を組んだりおおげさなジェスチャーを使ったりしていないかという意味です。「意欲を感じさせる表情」は、「この会社に入りたいという意志を感じさせる表情」という意味で、主に視線など目の表情で表現されるものです。

特に注意事項としてあげていませんが、面接での緊張はどうしても避けられないものです。初めに自分の名前等簡単なことを答える時に、意識的に口角を上げて笑顔を作って元気に答えると場の雰囲気が和らぎ、自分自身をリラックスさせることができることを伝えるとよいでしょう。

1-1 仲間と話そう

(15分)



それぞれの項目について自分に当てはめて考え、その結果をグループ・メンバーに話します。1人1人のコメントについて、妥当な自己評価であるかどうかをチェックし、問題のある場合は教師からの提案という形で助言します。また自信のない点については、その対処法について学習者自身が意識しているか、メンバーからアドバイスが出ているかどうかを観察します。

1-2 「弱点克服」宣言をしよう

(15分)



「面接官に与えたい印象」については「第7回私プロデュース」で決めたものを元に、同じでも変化があってもいいと思います。「積極的」「真面目」「落ち着いた印象」等、面接時に演出したい自分の印象をキーワードで表します。

「そのために気をつけようと思っていること」は、前記のグループ活動の中で受けたアドバイスなど、明確にした対処方法を意識するために記述します。「口を大きくあけ、はっきり話す」「話の流れをイメージしてから話し始める」等、実際の場面でどう動くかを考えます。書き終わったら、クラス全体に宣言してもらいます。

2. 「本気で面接」最後の練習

(40分)



3人1組のグループを作ります。人数が足りない場合は面接官役が評価者役を兼ねてペアで行います。

- 1) 評価者役は応募者役の宣言内容に目を通し、ポイントをつかんでおく
- 2) 面接官役は「企業の採用担当者」になったつもりで質問を行う
- 3) 全質問が終了したら、評価者役は応募者役にフィード・バックを行う
- 4) ロールを変えて同様に行う

面接官役が交代するときにはロールカードを変えます。質問項目の1～3は共通ですが、4、5は別の内容になっています。質問4はいわゆる「圧迫面接」と呼ばれる質問で、面接官が応募者の反応を見るための質問となっています。このような質問が必ずあるとは言えないようですが、外国人留学生に質問されるかもしれないと考えた項目にしてあるので、落ち着いて現状を述べた上で自分の希望や努力によって変えていくという意思を述べるよう指導します。

評価者役は、応募者の宣言内容を頭に入れて、言語と非言語の両面でどのような結果であったかを観察し、終了後本人にフィード・バックするようにします。

それぞれの質問に対する答えは、十分な内容を長くても1分以内で回答できるようにします。積極的で熱心な回答であっても、1分以上続くものは「だらだらとしている」など、よくない印象を残す可能性があります。次回のVTRでの撮影とコース最終の評価につながる最後の練習だということを意識して、十分な練習時間を確保してください。

第13回 自己表現活動（5） 本気で面接2 ビデオ撮影

～これまでに学んだことのすべてを出しきろう～

●目的

これまでの自己取材活動・自己表現活動の成果を面接の場で発揮する

これまでの授業活動の集大成として、臨場感のある模擬面接を行います。

●目標

面接に向けての自分の「宣言」を実行する

第12回で「宣言」した自分の弱点を克服できるように意識して面接に臨みます。

●用意するもの

観察者用の個人面接評価シート¹（活動冊子 p. 49）のコピーを必要枚数（1回の面接につき、観察者の合計人数分が必要）

VTR撮影用の機器、タイマー（音が出るもの）

●手順

1. 面接の前に「個人面接の進め方」と「評価の仕方」を確かめよう（10分）



個人面接の進め方、評価の観点について、活動冊子を見ながら全員で確認する

1-1 個人面接の進め方

面接の流れは第7回「私プロデュース」の印象チェックとほぼ同じです。

1-2 評価の仕方

活動冊子の個人面接評価シート¹を見て、評価の観点を確認します。

各評価項目は前回の「面接の注意事項」と重なるので、学習者の中での意識付けは十分行われていると思います。

「質問に答えるまでの時間」と「途切れずに話を続ける」では、話し始めと話の間に沈黙が現れないかどうかを見ます。

「話の内容」では、質問への答えがずれていないこと、また内容に説得力があるか、オリジナリティがあって評価者の印象に残る答えだったかが評価のポイントになります。

学習者同士の相互評価は難しさを伴いますが、相手の課題発見の手助けになるように、誠実に評価するように促すことが重要です。

2. 個人面接実施

(80分)



A・B各グループで、一人ずつ順に個人面接をしてVTR撮影をする

活動冊子のイラストを参考に、志願者用のいすを面接官と対面するように配置し、観察者は側面から観察できる位置に座り、VTRカメラをセットします。

Aグループは全員室外で待機します。

クラス的人数が8人前後の場合、1人当たりの面接所要時間は10分程度となりますが、クラスの実情に合わせて一人当たりの時間を調整します。

・1問につき回答時間は1分以内とし、タイマーを鳴らして時間を知らせる。

・質問 ①自己PR

②なぜこの職種を志望するのか

③なぜ日本で勉強し、就職したいと思うのか

①～③は全員共通

・④と⑤の質問内容（事前に知らせないようにする）

Aグループ ④今の日本語力で仕事は大丈夫か

⑤日本で体験した困難をどう乗り越えたか

Bグループ ④帰国して、自国で仕事を探したほうが現実的ではないのか

⑤日本の企業文化についてどう思うか

④の質問はいわゆる「圧迫面接」で、志願者を動揺させて反応を見るものです。否定的な質問を投げかけられても、感情的にならずに冷静に反応できるかどうかの評価のポイントになるので、面接官は意図的に懐疑的なニュアンスを込め、突き放すような口調で質問をします。

可能であれば面接官は企業面接の経験がある外部の方に担当していただくと、実際の企業面接に近い体験を得ることができます。同時に、企業の採用者の視点からの評価やアドバイスが受けられる機会にもなります。

第14回 評価（1） 面接～これからの課題1 ビデオ評価

～VTRを見て自己評価をしよう～

●目的

面接の場で表現できたこと、できなかったことを明らかにする

自分の面接時の様子を自己診断し、仲間から口頭でのフィード・バックを受けます。

●目標

自分の面接の様子を客観的に評価する

個人面接自己評価シートで、2段階評価していきます。

●用意するもの

VTR再生用の機器、前回の模擬面接を録画したテープ

●手順

1. 面接のVTRを見てふりかえる

(90分)



VTRを見て自己評価を行い、感想を話し合う

1-1 自己評価

自分の面接VTRを見て、自分自身はどう評価するのかを記入していきます。周りから感想や評価を聞く前に、自分の主観で記述するようにします。

1-2 VTRを見た後の話し合い

まず本人が「思っていたよりも表情が硬くて驚いた」のように、率直に感想を話します。次に、周りが感想を出し合う形で話し合いを進め、指摘を受けたことを各自メモ書きしておきます。

第15回 評価（2） 面接～これからの課題2

「面接のコツ」ノートで振り返り

～これまでの私、これからの私～


●目的

これまでの学習を振り返り、これから何をすべきかを考える

●目標


面接での受け答えについて他の人の評価と自分自身の評価を比べ分析する

●手順


1. 自分の評価と他の人の評価を比較する (20分) 

「第13回 本気で面接2」でのクラスメート4人による評価と、「第14回 面接～これからの課題1」でのVTR録画を振り返って行った自己評価を各項目で集計します。その結果を見て、「第12回 本気で面接1」で宣言した自分の課題を元に行った面接での受け答えがどのように伝わったかを考えます。

「外見・態度」は非言語面での面接のコツを意識できたかどうか、「話のやりとり・話し方」は言語面での伝わりやすさ、「話の内容」では質問に対する答えの内容面での的確さを示しています。4番目と5番目は質問項目が変わるので空欄にしてあります。

2. 最終結果をまとめる (40分) 

各項目に関して、(A：良い B：改善の必要)のどちらについてか集計したものを使用して、振り返りを行います。

 - 1) ポイント1についてその原因を考える 
 - 2) ポイント2についてその原因を考える
 - 3) 自分が考える原因を結果と共にグループ・メンバーに話し、意見をもらう
 - 4) 本当の面接に向かって何を自分の課題とするかをポイント3としてまとめる
 - 5) 各ポイントを文章化してクラス全体で発表する

ポイント1 同じだった項目について原因だと思うこと

自己評価と他者評価が同じだったものについて、(A：良い)の評価で同じだった場合は、意識して伝えようと思ったイメージや内容が伝わったと理解します。(B：改善の必要)の

評価で同じだった場合は、自分も他者も改善しなくてはいけない点という結果になったということになります。

ポイント2 違っていた項目について原因だと思うこと

自分の評価と他者の評価が異なる場合は、いずれも本人の意識と結果にズレがあることとなります。本当の面接の際にその結果が（A：良い）の評価で同じになるようにするために、そのズレがどこから生まれたのか原因を考えます。

ポイント3 本当の面接までの課題とその対策

ポイント1・2について考えた原因をグループ・メンバーに話して、その妥当性について意見をもらいます。その意見をもとにこれからの自己課題を明確にしてどのようにそれに取り組んでいくかをポイント3にまとめます。

3. 最後にコースの成果を振り返る

(20分)



「私がつかんだ面接のコツ11」（活動冊子 p.66）に記述してきたことを通してクラス全体でコースの振り返りを行います。各自が成果を元にこれまでの自分をどう評価し、これからの自分の課題をどうとらえ、どう対処していくのかを明らかにして、本当の面接へのステップアップにつなげます。

◆各回のキーワード

- 1 課題発見、エントリーシート、履歴書、学歴、職歴、西暦、送付状、ビジネス文書、
- 2 集団面接、手順、入室、一礼、着席、起立、退室、姿勢、視線、礼、印象、
言葉づかい、腕を組む、脚を組む、指摘する
- 3 専門分野、留学先、就職先、概略、関連性、再検討、条件を踏まえる、
関連づける、必然性
- 4 長所、短所、改善目標、明確、客観視、説得力、自己PR、傾向、活発、
慎重、我慢強い、几帳面、落ち着いている、責任感がある、仕事を任せる、自覚、
悪影響
- 5 強み、社会人基礎力、主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、
創造力、統計学、数値、指摘、意図、指針、予測、設計、最優先、保有、発信力、傾聴力、
柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力、おし合い、行き詰まる、
見定める、努める、不快感、礼儀、調整役
- 6 要素、取り組む、巻き込む、現状、分析する、生み出す、発生源、
対応する、発揮する、生かせる、定義する
- 7 非言語、自己表現、技法、デビューする、プロデュースする、第一印象、演出、
初対面、視点、面接官、応募者、理解力、意欲、雰囲気、服装、礼儀正しい、
快活、信頼、情熱的、優秀、戦略、失礼、根拠、狙う
- 8 志望動機、職種、職務、魅力、実現する、克服する、熱意
- 9 アピール、コミュニケーション能力、司会進行、議事録、討議、討論、結論、
議題、分担する、やりがい
- 10 人材像、駐在、ブリッジ人材、風土、活性化、異文化理解力、異文化適応力、
忍耐力、尊重、裏付ける、オリジナリティ
- 11 根拠、乗り越える、人柄、社会現象、設問、企業方針、困難、具体的
- 12 成果、宣言、沈黙、独自性、暗記、自信、弱点克服、苦手、役割、評価者、
ロール、ふさわしい
- 13 待機、感情的、途切れる、的確、外見、やりとり
- 14 振り返り、評価
- 15 受け答え、改善、対策、本番

■ 総合評価シート

日付：

氏名：

評価者：

1. 情報収集能力

① 自分自身を掘り下げて情報を引き出す

第1回 A B	第2回 A B	第3回 A B	第4回 A B	第5回 A B	第6回 A B
第7回 A B	第8回 A B	第9回 A B	第10回 A B	第15回 A B	

② 他者の意見・評価から必要な情報を取り出す

第1回 A B	第2回 A B	第3回 A B	第4回 A B	第5回 A B	第6回 A B
第7回 A B	第8回 A B	第9回 A B	第10回 A B	第15回 A B	

2. 文書表現能力

① 就活にふさわしい語彙・表現レベルである

第1回 A B	第2回 A B	第3回 A B	第4回 A B	第5回 A B	第6回 A B
第7回 A B	第8回 A B	第9回 A B	第10回 A B	第11回 A B	第15回 A B

② 就活で求められる自己表現テーマに合っていて、独自性がある

第1回 A B	第2回 A B	第3回 A B	第4回 A B	第5回 A B	第6回 A B
第7回 A B	第8回 A B	第9回 A B	第10回 A B	第11回 A B	第15回 A B

3. 口頭表現能力

① 端的で明確な自己表現ができる

第2回 A B	第9回 A B	第13回 A B
---------	---------	----------

② 狙いどおりのアピールができる

第13回 A B

コメント

総合評価：

--

--

■ 総合評価 評価方法

評価はA（良い）とB（改善の必要がある）の2段階とし、A（2点）とB（1点）の加点評価とする。

1. 情報収集能力

授業中の作業活動の様子を観察して評価を行う。

2. 文書表現能力

成果物「私がつかんだ面接のコツ」を評価対象とする。

3. 口頭表現能力

模擬面接（第2回・第13回）とグループ・ディスカッションでの口頭表現能力から評価を行う。

以上1～3の合計を評価点とし、A+（90%以上）、A（80%以上90%未満）、B（70%以上80%未満）、C（60%以上70%未満）、F（60%未満）とする。

○監修

財団法人 海外技術者研修協会

○執筆者

山本弘子 カイ日本語スクール 代表
松尾恵美 カイ日本語スクール 専任講師
中村和弘 カイ日本語スクール 専任講師
倉本文子 カイ日本語スクール 専任講師
深澤道子 カイ日本語スクール 非常勤講師
増田アヤ子 カイ日本語スクール 非常勤講師
松本直美 カイ日本語スクール 非常勤講師

○イラスト

柳原満月

※執筆者の所属は教材作成時（平成19年度）のものです。

本教材は財団法人海外技術者研修協会が経済産業省より受託し実施した「アジア人財資金構想・共通カリキュラムマネジメントセンター事業」の一環として開発されました。

監修

財団法人 海外技術者研修協会

〒120-8534 東京都足立区千住東1-30-1

電話 03(3888)8211

<http://www.aots.or.jp>

2011年3月

©2011 The Association for Overseas Technical Scholarship (AOTS)

不許複製・転載